

石畑新道

六道山に登る道はいくつかありますが、石畑新道は五小の横から石畑公園まで続いている舗装道路です。桜並木が美しいので、さくらまつりの時はここから登る人も多いと思います。数年前、谷間の梅林にも手を入れたため、桜の前に梅を楽しむこともできます。

五小の横から六道山へ登る道は4本あります。一つは石畑新道。一つは石畑旧道と言うべきでしょうか。新道の方が車両通行止めになったため、自動車ではこちらを使わなければなりません。

一つは五小の裏側から尾引山遊歩道へ登る細い道。ここは昔、水田があったような形状をしています。残る一つは左にそれて台坂遊歩道へ登る道です。途中の展望台から下を見ると干上がった貯水池のようなものが見える、少し不思議な地形です。



▲梅林

藤田 久美子

昨年を振り返って

昨年は退職してから二年目。自由人の生活にも慣れて、時間の余裕ができました。そこで、地域への参加を志して、住んでいる町の情報特派員になりました。このことが契機となり、次々と新しい経験をさせてもらいました。

まずは、町を紹介するタウン誌への参加です。私には全て初めてのことで、多少戸惑いもありましたが、そこで出会った方々に助けられて、なんとか記事を完成させることができました。この会は本の発行で終わりましたが、私の幸運はこの後も続きました。本に書いた散歩コースの紹介ということで、地元のテレビやラジオにも顔を出す経験をさせてもらったのです。おかげで、朝夕の散歩で出会う方々の会釈が増えたような気がしています。そして、年末を迎えたのですが、なんと私の幸運はいまだに続き、町の写真コンテストの入賞というおまけまで届いたのでした。昨年は望外の幸運を頂けた年で、まさに上出来でありました。

今、静かに一年を振り返ってみると、この幸運は皆、人との出会いがあってこそのものであります。出会いに感謝し、また今年の多幸を祈りたいと思っています。

小暮 彰

瑞穂にバイオリン作りの名匠あり

皆さん、わが町に日本でも10指に入るバイオリン作りの名匠がいる事をご存じですか。その人は箱根ヶ崎東松原に「ユニゾン」という工房を持つ加戸 宏和さんです。加戸さんは高校時代に、何気なく見た雑誌にバイオリンの写真が載っていて、それを見た瞬間「このような美しいバイオリンを作りたい」との衝撃が走ったそうです。そこからバイオリン作りへの人生が始まりました。そして高校を卒業し、大阪から東京の師匠に弟子入りしてから、あのストラディヴァリウスの発祥の地、北イタリアのクレモナで修業を積みました。その後、瑞穂に居を構え、バイオリン作りを始めることになりました。

加戸さんは、注文を受けてから半年ほどかけて、100ほどの工程を全て手作業で作っていくそうで、気の遠くなるような話です。この他、修復も手掛けています。

加戸さんにはストラディヴァリのバイオリンが後世になって世界的な名器となったように加戸バイオリンも世界に名を残せれば、との夢があります。

「夢を追って人生を生きる」自分も見習いたいと思わされたインタビューでした。

川口 尊



ひゅーまん たうん

声のひろば

小さな親切

商協の前の花壇に植えた、ピオラ、シクラメン、葉ボタンなどがきれいに咲いています。葉がいつぱい落ちていて見づらい状態でした。そんな時、近くのMさんがきれいに掃除しているのを見掛けました。その方は、「私も植えました。花が好きだから」と一生懸命掃除していました。花も青空の下で「ああ、気持ちがいい」と笑っているようでした。小さな親切は人にも喜ばれるし、自分も気持ちが良いものです。

旭町 吉岡

まだまだ現役

皆さんは青梅信用金庫前の榎本時計店さんを知っていますか。来年90歳を迎えられる笑顔がすてきなおじいさんが、元気に仕事に励んでおられます。

私は、町が活性化できるようにと町内のお店を利用しています。町には大型ショッピングセンターで修理や電池交換をするところがありますが、私はいつもこのお店を利用させていただいています。時計の修理等が出来るまでの間、いろいろな話ができる時間を楽しみにしているからです。

お店の中には、45年間続けられている油絵がぎっしりと飾られており、一枚一枚良い思い出の品とのこと。若い頃は、宿泊しながらその場所で時間をかけて描いていたそうで、大変見事な作品ばかりで見ていると時間も忘れるほどです。町内にこんなに頑張っている大先輩がまだまだ現役でいることは、大変うれしいことだといつも感心しています。これからも健康で仕事を続けられることを願っています。

難波 睦子

気力が第一

寿楽の男の体操教室に通っています。最初は60歳過ぎたじいちゃんたちがすることだからと高をくくっていたが、始めてみるとこれがきつい。自分は一万歩を週に4日は歩いているとの自信がありました。翌日には太もも、ふくらはぎなどが痛かったです。

運動神経も良いと思っていたが情けない。参加者14名で最高齢80歳の方もいます。3月いつぱい頑張るつもりです。

指導の先生(女性)は褒め上手でつい力を入れすぎると、「そんなに根をつめてしなくてもいいよ、死んじやうからね」と冗談も飛び出し、楽しい雰囲気です。また、看護師さんがついていて、血圧、脈などを始めと終わりに測ってくれます。

薬の話などもあり、「あまり薬に頼らないように」とおっしゃっていました。そして「薬の反対は何?」と質問があり、答えは「リスク」で一同納得しました。

これから寒くなりますが、体を鍛えるのではなく、体を動かす気力を養えばインフルエンザも怖くないと思っています。

山口 忠

